

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	49	月1回の外出に関しては、ほぼ実施できているが、散歩や買い物に出る機会としては少ないのが現状です。外へ出たいと希望される入居者様に要望に応えられるようにしていきたい。	日常の中で、入居者様の要望によって散歩や買い物等の機会をつくっていく。	・できる限り毎日要望に応えられるような人員配置をしていく。	1ヶ月
2	4	もっと地域の方々との交流する機会をつくっていききたい。	地域の行事に参加することや、学校や幼稚園との交流の機会をつくっていく。	近隣の学校や幼稚園等に声をかけ、運動会等の行事への参加をさせて頂けるようお願いする。 介護相談員に関して、現在のところ申し込み等の依頼はないが、施設側から依頼していく。	3ヶ月
3	63	ご家族様に対しての交流の機会が少ないため、運営推進会議だけでなく、家族会を実施していく。	1月に実施予定であった家族会が、ノロウイルス集団感染のため実施できなかった。 3月までに家族会を実施する。	家族会のお知らせを配布し、できる限り多くのご家族様に参加して頂き、日常の取り組みや施設としての方向性(支援の目標)を伝えるとともに、ご家族様からの要望・質問等を聞き取りする。	2ヶ月
4	13	職員のスキルアップ。新人スタッフの育成。離職率の軽減。介護技術も大事だが、気持ちの部分での配慮や、自立支援を目標とした支援ができていない職員が多い。	毎月1回のユニット会議、全体会議の場で研修に力をいれ、職員のスキルアップを図り、モチベーションを高められるようにし、離職率を低下させていく。	毎月1回の全体会議や、研修内容によっては別の日を設定し、介護技術だけでなく介護保険法(グループホームの意義)、千葉エリアで取り組んでいるモデルホーム評価の項目にそって毎月支援を振り返る機会をつくる。	6ヶ月
5	59	入居者様一人ひとりの役割や、グループホームとしての自立支援に向けての取り組みを現状よりも増やしていく。	ユニットごとに入居者様一人ひとりのできる事を継続し、新たに役割をつくり、入居者様からの「ありがとう」ではなく、日常の中でスタッフが「ありがとうございます」という会話ができるようにしていく。	ご入居者様一人ひとりを知り、その方ができる事を増やしてような声かけや環境設定を意識し、スタッフが関わっていくようにしていく。はじめからできないだろうという視点ではなく、何事にもチャレンジし頂き、日々継続して取り組んで頂くようにしていく。	3ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNoを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。